

第4次柏市生涯学習推進計画 改訂版
【パブリックコメント原案】

柏 市

目 次

I N D E X

p 1 第1章 当計画の概要

- p 2 1 計画の背景
- p 3 2 計画の位置付け
- p 3 3 計画の期間
- p 3 4 計画の進行管理

p 5 第2章 生涯学習の現状と課題

- p 6 1 生涯学習の理念と定義
- p 7 2 国・県の動き
- p 8 3 柏市総合計画の方針
- p 10 4 第4次計画の総括

p 19 第3章 新たな計画が目指すもの

- p 20 1 柏市が目指す生涯学習像
- p 21 2 目指す方向性
- p 24 3 取組方針

p 29 第4章 計画を推進するための取組

- p 30 1 成果指標
- p 31 2 取組方針と主な事業

第1章

当計画の概要

1 計画の背景

わが国においては、本格的な少子高齢化と人口減少社会の到来、さらにはグローバル化や高度情報化・AI等の先端技術の進展といった社会情勢の著しい変化により、生涯学習に対する市民意識や学習ニーズが多様化しています。また、令和元（2019）年末に発生し世界的に流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が、人々の生活スタイルや価値観を変えるとともに、市民の生涯学習においても様々な活動が制限されるなど、社会全体に大きな影響を及ぼしています。さらに、人ととの接触機会の低減や地域間の往来の制限は、テレワークやオンライン会議といったデジタルツールの活用が社会に急速に浸透する契機となりました。

こうした状況において、一人ひとりが生きがいに満ちた豊かな人生を送るため、生涯を通じて学び続けることができる環境づくりが求められており、生涯学習の推進の必要性、重要性は一層高まっています。

一方、地域のつながりの希薄化や若年・現役世代の地域参加の減少といった地域の様々な課題や、社会情勢を背景とした地域課題の複雑化が進む中、一人ひとりの学習成果を地域の課題解決に生かすことができる知の循環型社会¹の構築が求められています。

第4次柏市生涯学習推進計画では、「笑顔と元気が輪となり広がるまち柏」を将来像に掲げ、一人ひとりが生涯学び、生き生きと暮らせるまちを目指した施策を進めてきました。

これまでの取組による成果や課題の抽出、市民アンケートの結果や審議会からのご意見、国や県における生涯学習政策の動向や社会情勢などを踏まえ、生涯学習施策を着実に推進していくため、新たな時代に即し、計画を改訂しました。

◆ 計画改訂の視点

コロナ禍において第4次計画の事業推進にも支障が生じていたことから、本計画は、第4次計画の継続性を重視し、基本的な理念を踏襲しながら、国や県の新たな生涯学習施策の方針や、市の関連計画の方向性を加味した改訂版とします。

¹ 知の循環型社会 学習で得た知識や経験を地域や他者と共有・活用することで、新たな学びが生まれる仕組みを構築する社会

2

市の最上位計画である、「柏市総合計画」の部門計画として策定します。なお、柏市第六次総合計画においては、施策「生涯学習・文化」に位置付けられています。

また、市が策定する「柏市教育大綱」を踏まえた内容とする他、市の教育の目指すべき方向性・目標を示した「柏市教育振興計画」と、市の芸術文化行政の方向性・目標を示した「柏市芸術文化振興計画」と整合を図ることとします。

3

第4次計画の終期が令和7年度であることから、改訂版は令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

ただし、社会情勢の変化や施策の進捗状況などを踏まえ、必要に応じて見直しを図ります。

令和	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
西暦	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
柏市総合計画		柏市第五次総合計画 後期基本計画					柏市第六次総合計画 令和16年度まで			
柏市教育大綱		柏市教育大綱				柏市教育大綱				
柏市教育振興 計画		第2次 柏市教育振興計画				第3次 柏市教育振興計画				
柏市生涯学習 推進計画		第4次 柏市生涯学習推進計画				第4次 柏市生涯学習推進計画（改訂版）				
柏市芸術文化 振興計画		第五次 柏市芸術文化振興計画				第六次 柏市芸術文化振興計画				

4 計画の進行管理

本計画に基づく施策の実施に際しては、毎年の進捗状況の把握に努めるとともに、PDCAサイクルによる継続的改善の考え方を基本として、推進していきます。

また、中間年度には、具体的事業による進捗管理と合わせて取組状況を確認し、必要に応じた事業の見直しや、事業の追加・削除等の変更を行います。

第2章

生涯学習の現状と課題

1

生涯学習の定義

1 生涯学習の理念と定義

この計画においては、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」(教育基本法第3条「生涯学習の理念」)を踏まえ、学習する意思による教育訓練活動における学習や自己学習活動における学習だけでなく、偶発的学習も含めた、学習が伴うすべての行為を生涯学習と捉えます。²

分類	①教育訓練活動における学習	②自己学習活動における学習	③偶発的学習としての学習	④学習を伴わない余暇活動等
学習の性格	人々に学習させることを本来の目的とする活動に参加して学習すること 例) 学習することを目的として、学校教育、社会教育、企業内訓練などにおいて教育訓練を受けた場合	教育機関等の助けをかりずに、自ら学習すること 例) 学習することを目的として、本などを用いてひとりで学習した場合	日常生活の種々の活動の中で、結果としてたまたま何かが学ばれた場合 例) 学習する意思はなく、読書、散歩、通勤、映画鑑賞、旅行、スポーツ、文化活動などの中で、結果として偶然何かを学習した場合	結果として学習を伴わなかった、心の豊かさや生きがいのための活動等 例) スポーツ、文化活動、その他の余暇活動等をして、結果として何も学習しなかった場合
学習か	学習が行われる			学習が行われない
学習意思	学習する意思がある（「学習活動」の範囲）		学習する意思がない（「偶発的学習」）	



本計画における生涯学習の定義

著 / 岡本 薫『行政関係者のための 新訂 入門・生涯学習政策』より作成

² 岡本薰著「行政関係者のための新訂入門・生涯学習政策」、一般財団法人日本青年館、2022、p.34-35。

2 国・県の動き

1 国の動向

令和5年6月に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の作り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイング³の向上」がコンセプトとして掲げられ、今後の教育政策に関する5つの基本的な方針が示されています。ここでは、変化する社会・経済環境に対応できるよう、知識や技能の習得、自己実現、社会参加を促進する学びのシステムの構築を目指すとしました。ICTを活用した学習環境の整備や地域などとの連携を進めながら、全てのライフステージで学びが充実するような取り組みが重要視されています。

中央教育審議会第12期生涯学習分科会では、計画等を踏まえ、社会人のリカレント教育⁴、障害者の生涯学習、外国人に対する日本語教育、地域の基盤を支える社会教育人材のあり方等について議論を行い、その結果を令和6年6月にとりまとめています。

2 千葉県の動向

県は、令和5年5月に「千葉県生涯学習推進方針」を策定しました。人生100年時代⁵・Society5.0⁶の到来、社会的包摂⁷の必要性の高まりなど、生涯学習をめぐる環境が大きく変化する中で、県民一人一人が、いつでも、どこでも学ぶことができ、その成果を生かし、生涯にわたり活躍し続けられる社会の実現を図るとしています。「社会とつながる生涯学習」を目標とし、これを実現するための視点として「生涯にわたる社会での活躍の推進」、「県・市町村・民間による役割分担と相互の連携・協働」、「ICT活用を含めた適切な方法による学習の推進」を定めています。

令和7年3月には「第4期千葉県教育振興基本計画」を策定し、「人生をしなやかに切り拓き、千葉の未来を創る『人』の育成」を基本理念に、次代を担う子供たちの育成を目指して、各種施策を展開しています。

³ ウェルビーイング 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

⁴ リカレント教育 学校教育を修了した後、社会人が再び学校等で受ける教育のこと（recurrent：循環）。職業から離れて行われるものか、職業に就きながら行われるものかを問わず、職業に必要とされるスキルを身につけるためのリスクリキングや、職業とは直接的には結びつかない技術や教養等に関する学び直しを含む概念として用いている。

⁵ 人生100年時代 平均寿命の伸びにより、100歳まで生きるのが当たり前になる時代がくるという考え方。英国のリンダ・グラットン教授が著書「LIFE SHIFT(ライフ・シフト)」で提唱したのをきっかけに、長寿時代に向けて従来の社会制度や人生設計を見直そうという動きが広まった。

⁶ Society5.0（ソサイエティ5.0）サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させることで、経済発展と社会的課題の解決を両立し、人間中心の社会を目指す日本の構想。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く第5の社会。

⁷ 社会的包摂 社会的に弱い立場にある人々をも含め市民一人一人、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。

3 柏市総合計画 の方針

第六次総合計画においては、「将来の姿」及びそれを実現するための「基本的な目標」に資する施策の中でも、特に重点的に取り組むテーマを「重点テーマ」と位置付けています。

重点テーマ1の方向性の一つに、「誰もが学び続けられることで、人が育つまちを目指します」とあり、市民の自律的な学びを支え、誰もが学びの喜びを実感し、いかなる環境においても活躍できる人材が育つまちの実現を目指すとしています。

柏市第六次総合計画の重点テーマ

重点テーマ1 全世代に向けた学び・健康・社会参加

誰もが学び続けられることで、人が育つまちを目指します。

健康になれるきっかけにあふれたまちを目指します。

みんなの居場所になれるまちを目指します。

重点テーマ2 エリアごとの特徴を生かした地域経済・産業の振興

重点テーマ3 未来に備える防災・減災と気候変動対策



また、第六次総合計画の施策「生涯学習・文化」においては、「市民一人ひとりが生涯を通じて学び、地域の中で生き生きと暮らすことができるとともに、柏の風土に育まれた歴史や文化を通じて、市内外から魅力を感じてもらえるまちを目指す」とし、その実現に向けた生涯学習に係る方向性を、「誰もが学べる環境づくりを推進する」、「地域を学び、参加する仕組みづくりを推進する」としています。

柏市第六次総合計画 施策 生涯学習・文化

目指す状態 市民一人ひとりが生涯を通じて学び、地域の中で生き生きと暮らすことができるとともに、柏の風土に育まれた歴史や文化を通じて、市内外から魅力を感じてもらえるまちを目指します。

施策の方向性1 誰もが学べる環境づくりを推進する

- いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができるよう、世代、障害の有無、言語の違い、時間・経済的制約等にかかわらず取り組むことができる、多様な学びと参加しやすい環境を整備します。
- 的確かつ効果的な情報提供ができるよう、市民団体や民間事業者、教育機関と連携し、生涯学習情報を一元的に提供するとともに、様々なツールを活用した学習機会等を拡充し、効果的な学びを支援します。

施策の方向性2 地域を学び、参加する仕組みづくりを推進する

- 学びを通じたつながりによって、地域交流や連帯感を醸成し、地域課題の解決やコミュニティの活性化につなげていきます。
- 地域について知る・学ぶ機会の提供により、学んだ成果を地域に伝えることによって、地域に対する誇りや愛着を育むとともに、さらなる学びや地域活動のきっかけとし、学びの循環を生んでいきます。
- 地域の歴史への関心を醸成していくため、学校での郷土学習に積極的に協力していくとともに、企画展や講座においても参加者の交流を促し、次世代の歴史・文化財を支える人材や理解者の増加を図っていきます。

4 具体的事業の評価のまとめなどを踏まえて、第4次柏市生涯学習推進 第4次計画の 計画の取組方針ごとに総括を行いました。 総括

取組方針

1 「はじめるきっかけ」を支援」の振り返り

【計画の成果】

- 学校支援ボランティア⁸や夏ボラのススメ⁹など、ボランティア活動や体験を通じて、地域や福祉分野の知識や理解を深めるきっかけとなっています。
- 障害の有無にとらわれず、誰でも参加できる場を提供するなど、障害の理解促進と手話通訳者の派遣などに取り組んでいます。
- かしわフレイル予防ポイント¹⁰では、ポイントを貯めることをきっかけとして健康づくりやボランティア活動への参加が促進されています。

【アンケート調査結果から見た柏市の現状】

- 令和6年度柏市まちづくり推進のための調査(まちづくり調査)では、「自ら学ぶことのできる環境の整備」について、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した市民の割合は19.9%にとどまっています。
- 柏市教育・生涯学習・芸術文化に関するアンケート調査結果(アンケート)では、「生涯学習を行うことは、必要だと感じているか」について、「強く感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した市民の割合は91.8%に上る一方で、「この1年間にどのような生涯学習をしたか」という設問において、「学習していない」と回答した市民が26.9%に上っています。
- 令和元年度アンケートに比べ「学習していない」と回答した人は減少しています(元年度:45.6%)が、生涯学習をしなかった理由については、「学校・仕事が忙しい」が42.6%、「家事・育児・介護などが忙しい」が22.7%、「きっかけがない」が33.6%に上っており、元年度と傾向は変わっていません。
- アンケートでは、「障害があっても、学習活動に参加しやすい」と思っている市民は、25.1%にとどまっています。

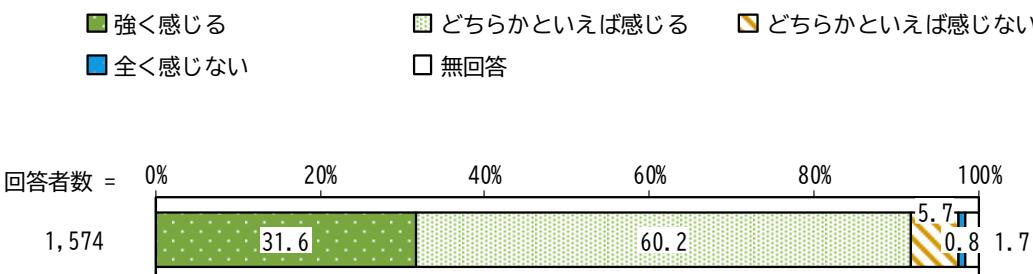
⁸ 学校支援ボランティア 小中学校において、地域ボランティアが参画する様々な支援活動。

⁹ 夏ボラのススメ 柏市社会福祉協議会が実施する、小学生から高校生向けボランティア活動情報誌の発行、夏休みに特化したボランティア体験。

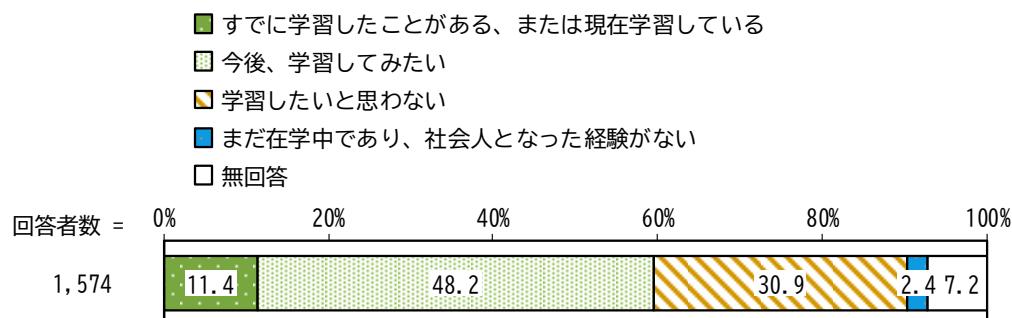
¹⁰ かしわフレイル予防ポイント(制度) 柏市に登録のある活動に参加することでポイントが貯まる制度。これまでの「かしわフレイル予防ポイントカード(WAONカード)」から、アプリ方式に移行(令和7年4月~)

- アンケートでは、「今後、教育機関などで学習したいと思っているか」について、「すでに学習したことがある、または現在学習している」が11.4%、「今後、学習してみたい」が48.2%に上っています。

生涯学習を行うことの必要性



今後、教育機関などで学習したいと思うか



【有識者等の意見から見えてきた課題】

- 市民の多様な学びのニーズに応えるとともに、初心者や未経験の人でも気軽に学びにつながるきっかけを様々な形で提供していくことが必要です。
- 高齢者や障害者の学習に対する必要なサポートについては、ハード面、ソフト面双方で十分に対応できていない面も見られます。
- 高齢や障害に伴う心身の状態、言語や時間、経済的制約など、学びに障壁を抱えた人の支援者や学習環境を充実していくことが求められます。

⇒これらのことから、市民が生涯学習をはじめるきっかけづくりを支援する必要があります。

取組方針

2 「「もっと知りたい、つながりたい」を支援」の振り返り

【計画の成果】

- 市民活動講座¹¹により、団体の運営基盤強化や人ととの交流が進み、新たな活動の創出につながっています。
- 地域学校協働活動¹²を通じて、地域住民が子どもの学びを支え、学校を核とした地域づくりが進んでいます。
- 地域アーカイブ事業¹³では、貴重な資料の収集・保存を進め、世代を超えて共有することで、地域への愛着や新たな学びの機会を生み出しています。
- 子育て分野では、ママパパサロン¹⁴や地域子育て支援拠点事業¹⁵により、妊娠期からの学習機会や保護者同士の交流を支援し、孤立予防や安心して子育てに向き合える環境の整備につながっています。
- 障害者活動センター¹⁶や福祉喫茶コーナーの運営を通じて、障害者の社会参加や障害理解の促進を図っています。

【アンケート調査結果から見えた柏市の現状】

- アンケートでは、「気軽に参加できるサークルやクラブ活動がある」と思っている市民は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて24.3%にとどまっています。
- アンケートでは、「中央公民館が利用しやすい」と思っている市民は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて33.9%にとどまっています。
- アンケートでは、「地域活動やボランティアに参加するきっかけや機会がある」と思っている市民は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて27.5%にとどまっています。

¹¹ **市民活動講座** 外部講師等による市民活動のためのスキルアップ講座。

¹² **地域学校協働活動** 幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。

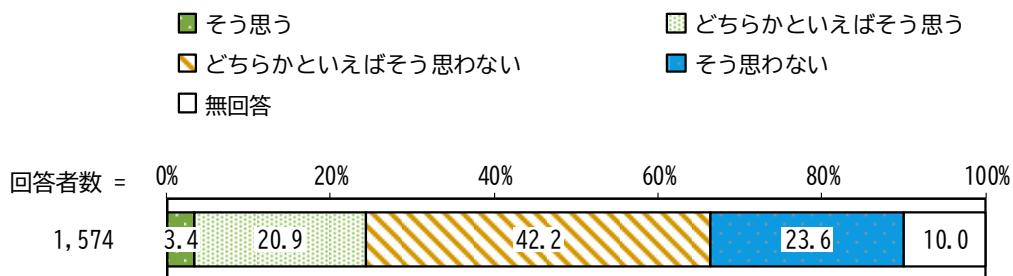
¹³ **地域アーカイブ事業** 柏市を創ってきた近現代の活動を記録した地域資料や、市内でのみ流通する発行物など、いま収集しなければ失われてしまう資料等を、図書館が収集し、整理・保存していく事業。

¹⁴ **ママパパサロン** 妊娠期に必要な知識や健康づくりの啓発と、地域での子育ての仲間づくりを行う、柏市母子保健課が実施する産前産後サポート事業。初産婦とそのパートナーを対象にオンライン形式で実施。

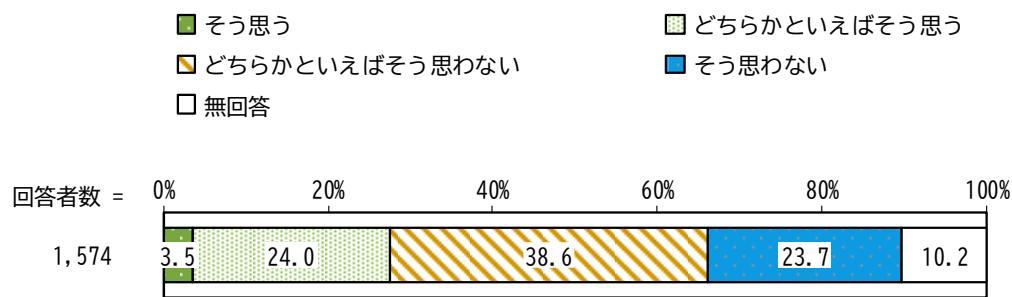
¹⁵ **地域子育て支援拠点事業** 地域ぐるみの子育て支援拠点「はぐはぐひろば」。育児講座や子育て等に関する相談、子育て親子の交流及び子育て関連情報提供の場。

¹⁶ **障害者活動センター** 教育福祉会館（ラコルタ柏）のリニューアルに伴い、障害者等の社会参加及び福祉の向上を目的として新たに設置した、障害当事者や家族、支援者等の活動の拠点となる場。

気軽に参加できるサークルやクラブ活動がある



地域活動やボランティアに参加するきっかけや機会がある



【有識者等の意見から見えてきた課題】

- 地域の人と人がつながり、学びを深めていくためには、学びの枠にとらわれず、人には会って学び合って成長していくことも学びだということを、広く知ってもらうことが必要です。
- 市民の学びを深めていくため、多世代や多分野の交流を促進し、つながりを広げていくことが重要です。
- 学び直しなどのニーズに応えていくため、生涯学習実施機関同士の連携の充実などを通じてネットワーク化を進めていくことが必要です。

⇒これらのことから、市民が個人の生涯学習を深めたり、学びを通じて仲間とつながったりすることを支援する必要があります。

取組方針

3 「「ひろく伝えたい」を支援」の振り返り

【これまでの取組】

- 柏市地域活動支援補助金¹⁷や地域づくり事業¹⁸を通じて、団体や住民の主体的な参画を促進しています。課題解決の過程や成果を広く発信することで、未参加の住民や他地域への波及効果も期待されます。
- 学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員¹⁹を養成することで、地域住民の学校支援への参画機会を広げ、継続的な協働活動となっています。
- 子育てや高齢者・障害者支援など身近な福祉の相談窓口である地域いきいきセンター²⁰を設置し、市民が安心して相談できる体制を整えています。

【アンケート調査結果から見えた柏市の現状】

- まちづくり調査では、「自らの学びを生かす場の創出」について、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した市民の割合は17.0%にとどまっています。
- アンケートでは、「学習や活動の成果を生かせる機会がある」と思っている市民は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて21.9%にとどまっています。
- アンケートでは、「地域活動やボランティアに参加するきっかけや機会がある」と思っている市民は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて27.5%にとどまっています。(再掲)
- アンケートでは、「学校、家庭、地域社会の連携がとれている」と思っている市民は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて33.6%にとどまっています。

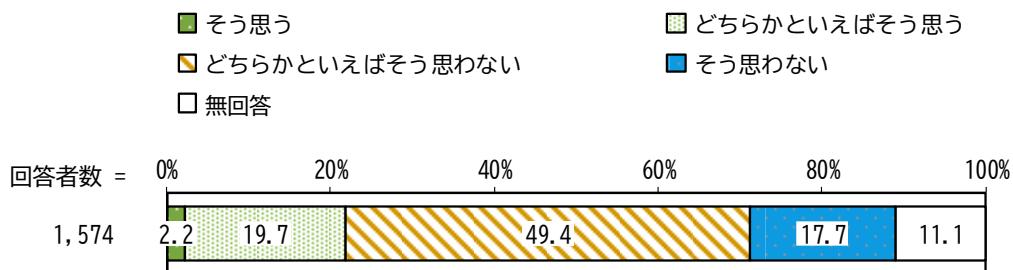
¹⁷ **柏市地域活動支援補助金** (+10 (プラスティン)) 地域力の強化を目的として、目的を達成するにあたり生じている地域課題の解決に積極的に取り組む地域団体（町会等）の活動を支援するもの。

¹⁸ **地域づくり事業** 地域が抱える様々な課題を、専門的な視点から掘り下げ関心を高め、課題解決に役立ててもらうための、公民館事業の一つ。

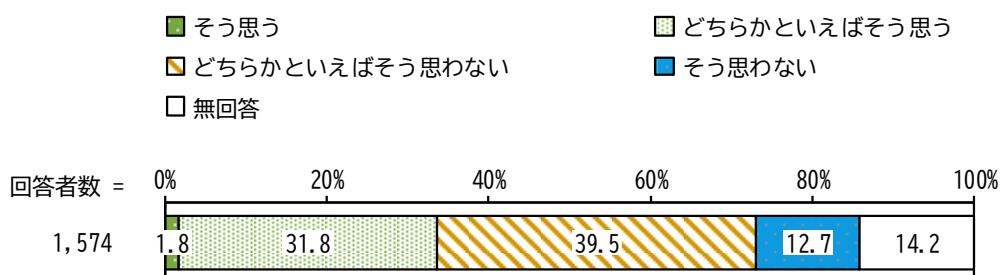
¹⁹ **地域学校協働活動推進員** 地域と学校をつなぐコーディネーターとしての役割を果たす者。

²⁰ **地域いきいきセンター** 地域づくり・子育て・障害者・高齢者支援等の充実を図るため、近隣センター等に設置された、身近な福祉の相談窓口。

学習や活動の成果を生かせる機会がある



学校、家庭、地域社会の連携がとれている



【有識者等の意見から見えてきた課題】

- 市民が学びで得たことを広げていくためには、団体・民間などの様々な主体との連携が必要です。
- 団体・民間などとの連携のもと、市民が学んだ成果を広く伝えていくためには、地域とのつながりづくりが必要です。
- 担い手の確保に向けては、リーダーシップを持つ人を発掘し、巻き込んでいくような取り組みが必要です。
- 生涯学習の担い手をコーディネートする人材の育成も必要です。

⇒これらのことから、市民が学んだ成果を他の人に伝えたり、学んだ成果を自ら行う活動に生かしたりすることを支援する必要があります。また、そのための人材育成を進める必要があります。

4 「情報提供による学びの支援」の振り返り

【計画の成果】

- 子育てや学びに関する情報を効果的に発信することで、市民の不安軽減と学習機会の拡充につながっています。子育て支援情報提供事業²¹では、ウェブサイトやSNSを通じて制度やイベント情報を発信し、保護者の孤立防止や子どもの健全な成長を支えています。
- 生涯学習情報提供システム²²を整備し、官民学を問わず講座やイベント情報を掲載することで、市民の学習参加を促進し、コミュニティ形成の一助となっています。
- 公民館や自宅など多様な環境で利用できる学習コンテンツを提供し、ライフスタイルに合わせた学習を支援しています。

【アンケート調査結果から見えた柏市の現状】

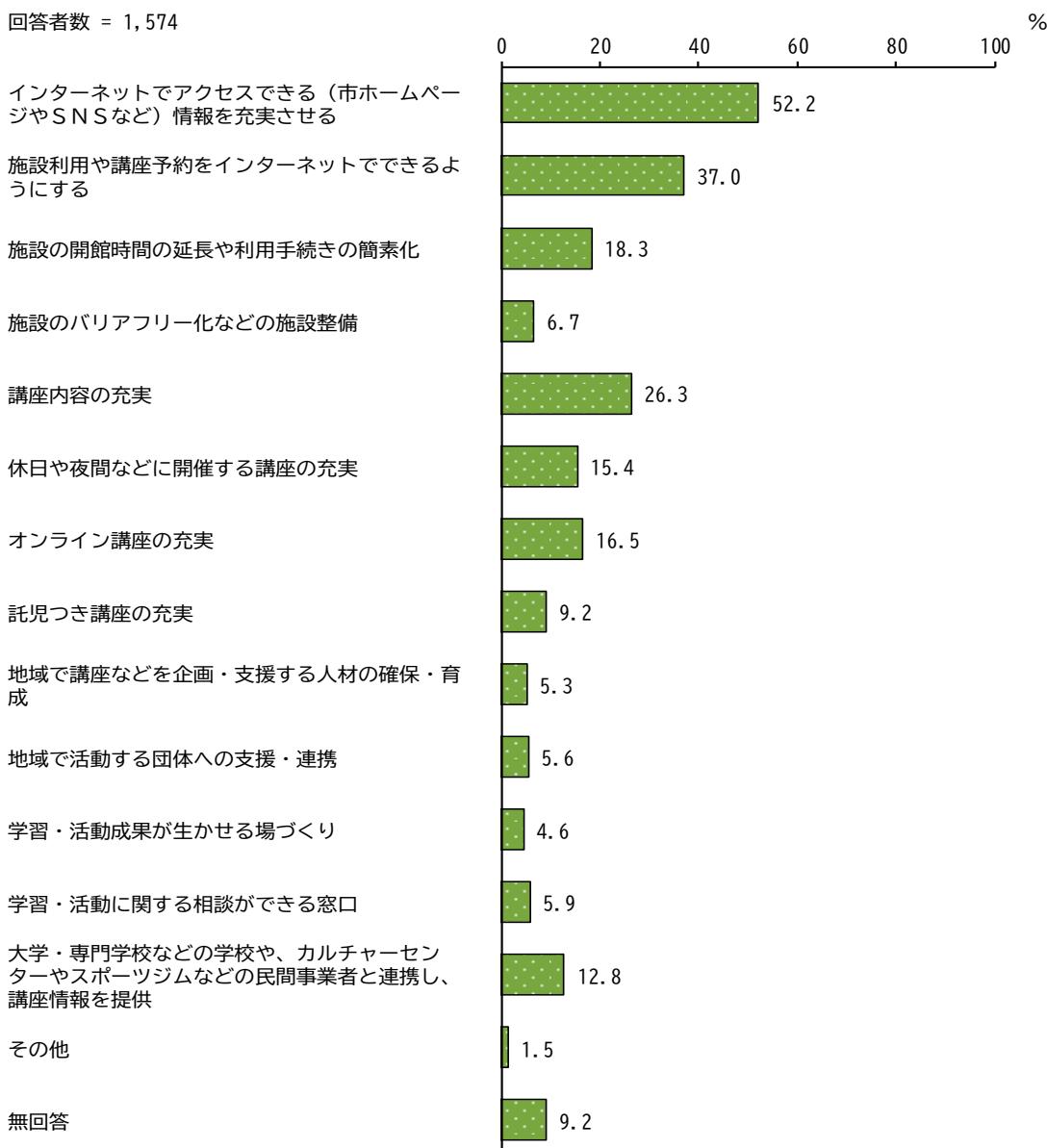
- アンケートでは、「生涯学習を行うときの情報収集の手段」について、「広報かしわなどの柏市が発行する広報物」が63.3%、「柏市ホームページ」が48.4%、「自治会、町内会の回覧や掲示板」が22.4%、「公民館や図書館などのポスター・チラシ」と「同SNS」が合わせて31.9%に上っています。
- 一方で、アンケートでは、「生涯学習に関する情報が充実している」と思っている市民は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて37.5%にとどまっています。
- また、「柏市は生涯学習の推進のためにどのように力を入れるべきだと思うか」について、「インターネットでアクセスできる情報を充実させる」が52.2%、「大学・専門学校などの学校や、カルチャーセンターやスポーツジムなどの民間事業者と連携し、講座情報を提供」が12.8%に上っています。
- 生涯学習活動を充実させるために市が力を入れるべきことは、令和元年度アンケートと同様に、情報の充実に対するニーズが高い傾向となっています。

²¹ 子育て支援情報提供事業（はぐはぐ柏）子育てに関する制度やイベント、支援団体情報などを、子育て情報サイト・LINE・Instagramで発信している。

²² 生涯学習情報提供システム（らんらんかしわ）柏市内や近隣市の生涯学習に関する情報（講座・イベント・団体等）を探したり、掲載したりできるサイト。官民問わず情報を提供。

柏市が生涯学習の推進のために力を入れるべきこと

回答者数 = 1,574



【有識者等の意見から見えてきた課題】

- 生涯学習情報に対する市民の高いニーズに応えていくためには、様々な情報が発信される環境を整備していくことが必要です。
- 生涯学習に関する情報入手手段が多様化しており、情報入手の選択肢を確保していくことが必要です。

⇒これらのことから、市民が学びのために必要な情報を簡単に取得できるように体制を整備する必要があります。

◆第4次計画の施策体系

【目指す生涯学習像】

笑顔と元気が輪となり広がるまち柏 ~学びを通じた地域活性化~

【目指す方向性】

- 子どもたちが健やかに成長するように
- コミュニティの中の人と人のつながりが増えるように
- すべての人が学べる環境に包まれるように

取組方針	主な事業
「はじめるきっかけ」を支援 ◆あらゆる世代が参加できる様々な学びの提供 ◆障害の有無、言語や時間・経済的制約に関わらず、 共に学ぶ環境の充実	障害理解促進事業 かしわフレイル予防ポイント 学校支援ボランティア 夏ボラのススメ
「もっと知りたい、つながりたい」を支援 ◆団体同士・学ぶ人同士の交流 ◆大学や民間事業者との連携 ◆より深い学びへの発展	市民活動講座 障害者活動センター運営事業 福祉喫茶コーナーの運営事業 ママパパサロン 地域子育て支援拠点事業 放課後子ども教室 分館活用事業 地域アーカイブ事業 地域学校協働活動
「ひろく伝えたい」を支援 ◆人材の育成 ◆コミュニティの育成 ◆行政機関の連携	地域活動支援補助金 地域づくり事業 地域学校協働活動推進員の養成 地域いきいきセンター
情報提供による学びの支援	子育て支援情報提供事業 生涯学習情報提供システム ライフスタイルに合わせた学習コンテンツの提供

第3章

新たな計画が目指すもの

生涯学習は、自発的に生涯にわたり行うもので、子ども、若者、社会人、高齢者など、あらゆる世代が学び続けることは、地域全体の活性化や愛着の向上につながります。

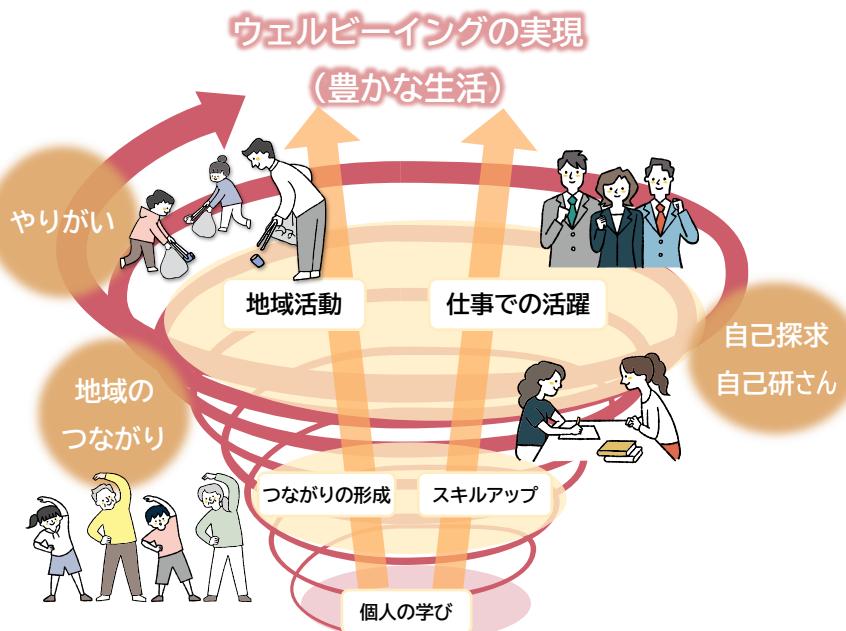
さらに、生涯学習を通じて人と人、人と地域をつなぐ「知の交流」が進むと、新たな価値やつながりを生み出します。小さな学びや地域貢献の積み重ねが、笑顔と元気が輪となって広がる地域社会を形成する原動力となります。

また、学校教育から離れたあとの学び直しや、仕事で求められる能力を磨き続けていく社会人の学び（リカレント教育）もますます重要なっています。

市民が生涯学習を自分事として捉え、一人ひとりのウェルビーイングの向上と、豊かな人生が実現することを目指し、柏市が目指す生涯学習像を以下のとおり表現しました。

知の交流を通じて人と地域の ウェルビーイングを実現するまち柏

生涯学習のモデル図



2 目指す方向性

一人ひとりのウェルビーイングの向上と、豊かな人生が実現することを目指し、次の3つの目指す方向性の実現に向けて取り組みます。

(1) すべての人が学べる環境に包まれるように

全ての市民がウェルビーイングを実現するためには、いつでも、どこでも、だれでも、学び続けられる環境づくりが重要です。学ぶ人一人ひとりが求める情報を得られる状態を目指し、ＩＣＴツールなどの多様な手段の活用や地域の大学や民間事業者との連携により、それぞれのニーズに応じて学ぶことができるよう、生涯学習情報の一元化に向けて、まずは集約化を進めます。

学んだ成果を地域で生かすことで、生きがい・やりがいを感じられ、自分自身が地域の一員であり主役であることの喜びや充実感の中で、地域に自らの居場所を持ち、生活できることを目指します。



(2) コミュニティの中に人と人のつながりが増えるように

超高齢社会を迎えた今、地域力の低下と地域の担い手不足の解消は喫緊の課題です。そこで、地域のために何かをしたいと思いながらもきっかけがない人と地域をつなぐことに取り組みます。

若い世代も含めた人材の発掘・育成へと広げていくことを目指すために、楽しさをベースとした学びを入口とすることも想定しつつ、これをきっかけに、幅広い世代や価値観を超えて人と人とをつなげ、共に学び合う環境づくりを目指します。



地域への理解が深まることで、身近な課題へ関心を持ち、市民が主体的に地域の課題を解決していく持続可能な地域づくりを進めます。

(3) 子どもたちが健やかに成長するように

家庭や学校、地域は、各自、子どもたちの成長に重要な役割を果たすのですが、ライフスタイルの多様化や核家族化に加え、子どもの育ちと地域との関係が薄れつつあります。



そこで、保護者・親子が集まり、仲間を作ったり、学びあったりできる機会の提供等の取り組みにより、子育ての不安や悩みを解消できる環境づくりを進めます。

今、子どもたちを全世代で、また、地域総がかりで育む視点が求められています。子どもたちが豊かな体験や多様な価値観との触れ合いを通じて自己肯定感や自己効力感を醸成し、未来の地域の担い手となり、自己の志の実現を図れる社会にしていくことを目指します。

市内公共施設における生涯学習の推進

3つの「目指す方向性」を実現するため、市民の学びを支える施設や設備が必要となります。次に紹介する市内公共施設では、行政や市民団体等が各種講座や展示を定期的に開催するとともに、年齢や障害の有無に関わらずどなたでも利用いただけるよう、施設のバリアフリー化を進めています。

●ラコルタ柏（教育福祉会館）

3～5階にある中央公民館は、市の「社会教育・生涯学習」の拠点施設として位置づけられ、様々な講座を開設するなど、誰でも利用できる市民の生涯学習の場を提供しています。公民館主催講座だけでなく、市民が自ら企画する講座支援や多様な地域団体とのネットワーク構築を図っています。

施設のバリアフリー対応としては、点字案内板や音声案内装置、赤色灯の設置など障害者にも配慮した施設となっています。



写真



写真

●図書館（本館、分館、こども図書館）

地域資料の保存・発信、学び・交流の場として、館内利用・貸出、レファレンス、郷土資料提供、データベース閲覧などの機能のほか、おはなし会等の子ども向け事業、小中高の学校図書館との連携など、子どもの頃からの学びの機会の提供を行っています。

また、外国語の図書を配架したり、来館困難な障害者向けサービスなども行っています。



写真

●郷土資料展示室

柏市域の歴史に関する資料・文化財を展示するとともに、芹沢鉢介（人間国宝）の作品を紹介しています。展示室は学習・交流の場としても使われており、市民向けに歴史講座や展示解説を行っています。



写真

●近隣センター

地域に密着した学習・交流拠点として活用されており、地縁組織であるふるさと協議会や地域の市民団体・サークルが近隣センターを拠点に幅広いジャンルの学びや交流の活動を行っています。また、地域住民の居場所としても機能しており、地域コミュニティの拠点となっています。

3 取組方針

目指す方向性を実現するために、次の4段階の支援を行います。

(1) 「はじめるきっかけ」を支援

「楽しさ」「手軽さ」「自己研さん」を入口とした学びを始められるきっかけをつくることは、生涯学習社会の実現において重要な要素です。

子どもから高齢者、働く世代や学び直しを希望する人が主体的に学べるよう、学習ニーズを把握しながら、多様なライフスタイルに対応した誰もが参加できる学びの充実を図ります。



世代、障害の有無、言語の違い、時間・経済的制約等に関わらず取り組むことができる、多様な学びに加え、学びの場へのアクセスも含めた参加しやすい環境を整備します。

【実現へのアプローチ】

- あらゆる世代が参加できる様々な学びの充実
- 障害の有無、言語や時間、経済的制約に関わらず、ともに学ぶ環境の充実

(2) 「もっと知りたい、つながりたい」を支援

楽しい！面白い！という気持ちから、もっと深く知りたい！へ。独学による自己の充足はもちろん、仲間と共に学ぶことで人とのつながりが生まれます。学びを通じたつながりによって、地域での交流や連帯感を醸成し、地域課題の解決やコミュニティの活性化につなげていきます。

人生100年時代を見据えた社会人の学び直し（リカレント教育）のニーズが高まっていることから、大学などの高等教育機関や民間事業者とも連携し、学習機会の多様化や情報共有の円滑化と、より深い学び、学び直しへの発展を図ります。



【実現へのアプローチ】

- 団体同士、学ぶ人同士の交流
- 大学や民間事業者等の生涯学習実施機関との連携による、より深い学び、学び直しへの発展

(3) 「ひろく伝えたい、学びを活かしたい」を支援

学びから広がる交流は、更なる学びや地域活動のきっかけとなり、学びの循環を生み出します。学んだ成果を地域に伝えることによって、地域に対する誇りや愛着を育むとともに、人から受け取った楽しさや優しさを更に別の人におくる、学びあい・支えあいの循環を生んでいきます。

社会教育士²³などのコーディネーター人材を活用し、地域で活躍する人材の育成などを通じて、みんなが活躍できる場の充実を図ります。



【実現へのアプローチ】

- 人材の育成、コミュニティの育成、地域資源の活用

(4) 学びのための情報提供と I C T 活用

情報提供は全ての段階に共通して求められる支援です。誰もが学びに関する情報を入手できるよう、多様な媒体を活用し、情報が届きにくい人にも配慮しながら効果的に充実した情報提供に取り組みます。

活動団体が情報発信できるツールを整理するとともに、I C T（情報通信技術）の活用によるライフスタイルに合わせた学習コンテンツの提供、生涯学習情報の集約化などを進めます。

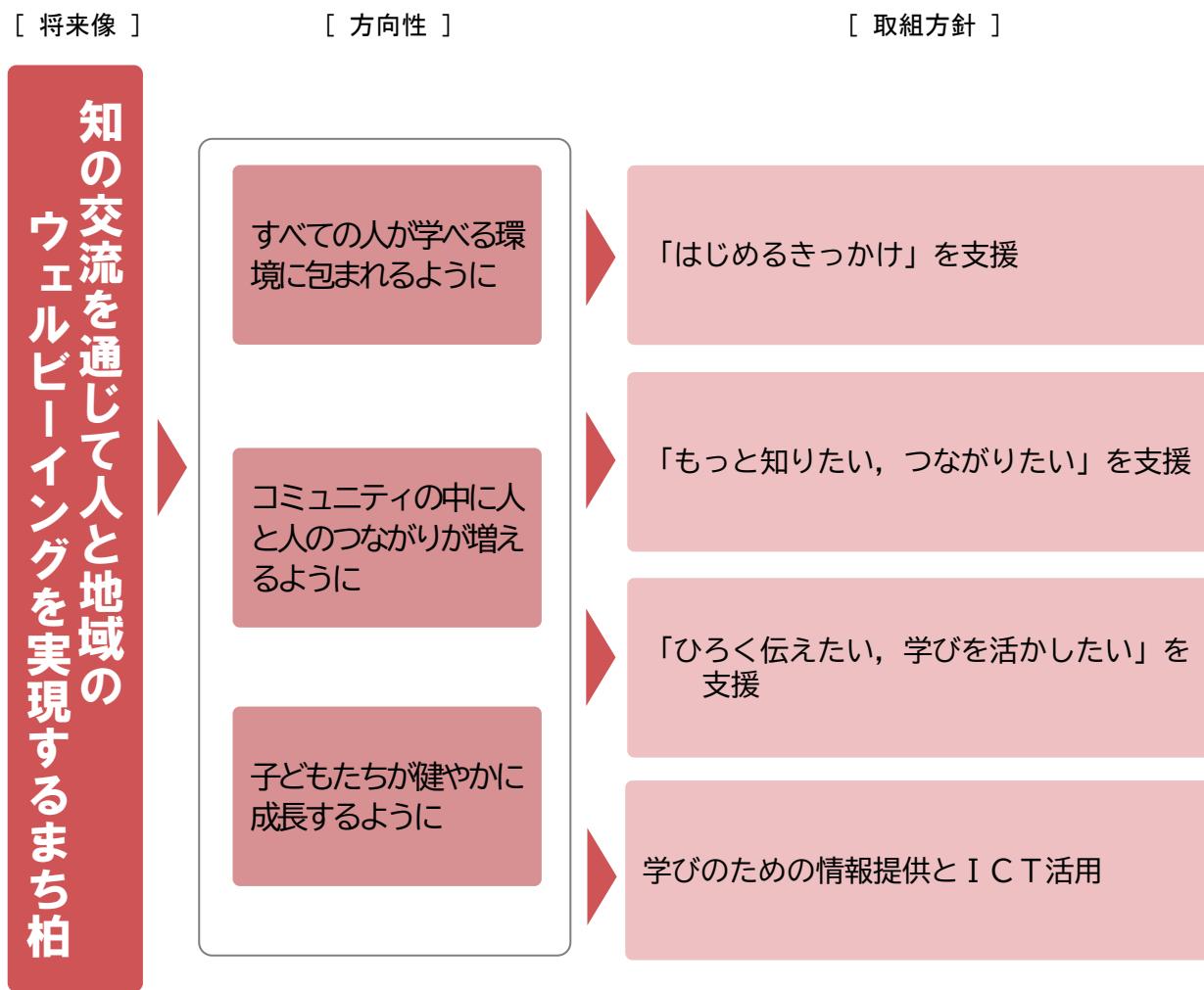


【実現へのアプローチ】

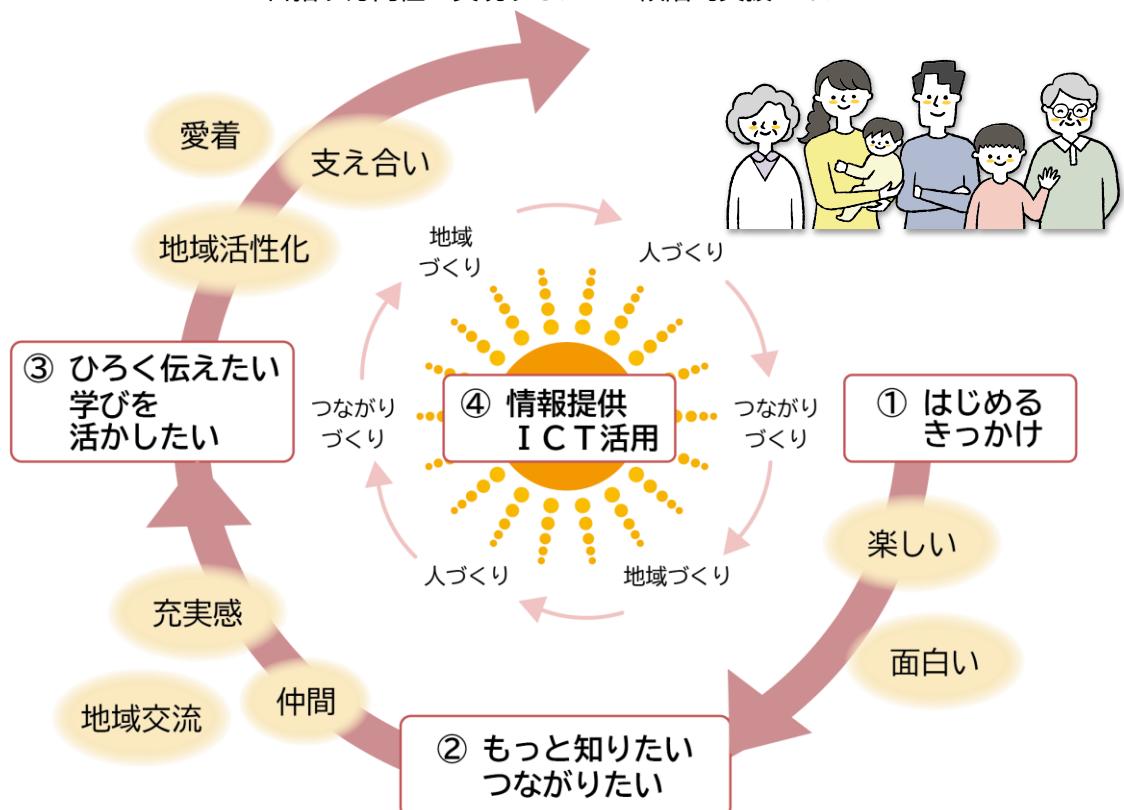
- 学びのプラットフォームの整備

²³ **社会教育士** 地域の人づくりやつながりづくりを通じて、地域課題の解決に貢献する専門人材。令和2年度に創設された国家資格。

◆施策体系



目指す方向性を実現するための段階的支援のイメージ



[実現へのアプローチ]	[実現に向けて必要な視点（施策）]
1 あらゆる世代が参加できる様々な学びの充実	「楽しさ・面白さ」「手軽さ」「自己研さん」を入口にした学びの仕掛け
2 障害の有無、言語や時間、経済的制約に関わらず、ともに学ぶ環境の充実	学びの支援者育成を含めた、学習環境の整備
1 団体同士、学ぶ人同士の交流	イベント等をきっかけとした参加者、学びのつながりの創出
2 大学や民間事業者等の生涯学習実施機関との連携による、より深い学び、学び直しへの発展	生涯学習実施機関（行政、団体、民間を含む）のネットワーク化の推進
1 人材の育成、コミュニティの育成、地域資源の活用	学びをきっかけとした地域団体・市民活動団体との連携と、地域活動につなげる仕掛け 社会教育士などのコーディネーター人材の活用
1 学びのプラットフォームの整備	市所管の活動団体が情報発信するツールの整理と民間情報を含めた、生涯学習情報の集約化 ＩＣＴツールの活用も含めた学びと広報

第4章

計画を推進するための取組

1 成果指標

計画の達成状況を評価するため、本計画では以下の指標を成果指標として定め、令和6年度の実績に対し、計画期間を通じて数値が増加することを目指して取り組みを進めていきます。

◆ 計画全体の目標

目指す生涯学習像	指標	令和6年度
知の交流を通じて人と地域のウェルビーイングを実現するまち柏	この1年間に生涯学習をした人の割合	72.2%
	幸福感がある人の割合	58.5%

◆ 目指す方向性ごとの目標

目指す方向性	指標	令和6年度
すべての人が学べる環境に包まれるように	この1年間に生涯学習をした人の割合（再掲）	72.2%
	障害があっても、学習活動に参加しやすいと思う人の割合	25.1%
コミュニティの中の人と人のつながりが増えるように	学校、家庭、地域社会の連携がとれていると思う人の割合	33.6%
	学校に対して協力してもよいと思うことがある人の割合	50.6%
子どもたちが健やかに成長するように	子どもが健やかに育つ環境が整っていると思う人の割合	48.5%

◆ 取組方針ごとの目標

取組方針	指標	令和6年度
「はじめるきっかけ」を支援	「自ら学ぶことのできる環境の整備」の満足度	19.9%
「もっと知りたい、つながりたい」を支援	「柏市をより良くするための活動への参加や行動しようとする気持ちは、どの程度ですか」で6点以上の人割合	35.7%
「ひろく伝えたい、学びを活かしたい」を支援	学習や活動の成果を活かせる機会があると思う人の割合	21.9%
	「自らの学びを活かす場の創出」の満足度	17.0%
学びのための情報提供とICT活用	生涯学習に関する情報が充実していると思う人の割合	37.5%

生涯学習と幸福感

生涯学習は個人の幸福度を高める要因として注目されています。国の研究機関の調査や市のアンケート結果では、成人が定期的に学習活動に参加している場合、主観的幸福感が高いことが報告されています。また、生涯学習は、社会全体の幸福度にも寄与する重要な要素の一つであると言われています。

生涯学習の推進は、個人の自己成長だけでなく、社会や経済の安定にも貢献するという考え方から、個人や社会の幸福感（ウェルビーイング）を高める要素の一つであると言えます。

2

取組方針と
主な事業

生涯学習の取り組みは、市民の自発的な学習や偶発的な学びも含め幅広いものとなります。本章では、計画を推進するため、市が実施する生涯学習事業、市が他の主体（市民団体、大学、民間企業、NPO等）を支援する生涯学習事業、市と他の主体が連携して実施する生涯学習事業の中から代表的なものを「主な事業」として取り上げます。

※新・令和8年度からの新規事業

1 「はじめるきっかけ」を支援

いつでも、どこでも、だれでも学ぶことができるよう、多様な学びと参加しやすい環境を整備します。

◆ 成果指標

指標	基準値 (令和6年度)	目標
「自ら学ぶことのできる環境の整備」の満足度	19.9%	増加を目指します

<実現へのアプローチ>

- ① あらゆる世代が参加できる様々な学びの充実

◆ 主な事業

「楽しさ・面白さ」「手軽さ」「自己研さん」を入口にした学びの仕掛け

事業名	内容		
新アフタースクール事業	全ての児童が安全安心に過ごせる放課後の居場所を提供するために、こどもルームと放課後子ども教室を一体的に運営する体制を市内小学校全校で実施できるよう、段階的に整備します。【アフタースクール課】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
夏休み子ども教室	アフタースクール事業実施校数	—	42校
	子どもたちの知的好奇心を引き出すことを目的に、夏休み期間中の小学生を対象に体験講座を実施します。【生涯学習課】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	参加後のアンケートで「楽しかった」と回答した子どもの割合	93%	90%以上



夏休み子ども教室



アウトリーチコンサート

事業名	内容		
公民館事業	市民の生涯学習に資する様々な講座を開催するとともに、講座を通じて講師役となるスタッフの育成につなげます。また、民間と連携しながら市民のニーズに沿った講座の提供に努めます。【中央公民館】		
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値
	講座の参加者数	27,657人	28,200人
新生涯学習推進事業の地域展開	近隣センター等の公共施設を学びの場として活用し、社会教育士などの社会教育人材がハブとなり、学びを切り口とした地域での居場所づくりと、「みんなつながる、まなびでつながる」環境づくりを支援します。【生涯学習課・中央公民館】		
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値
	受講者の満足度	—	90%以上
	つながりができたと感じた人の割合	—	90%以上
芸術文化が身近にある環境づくり	身近な公共施設や文化財を会場にしたコンサートの開催、市が所蔵している美術作品の展示、ワークショップの実施、歴史に触れる学びの機会の提供などを通じて、市民が芸術文化に触れる・学べる機会の充実を図ります。【文化課】		
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値
	イベントの開催数	31	34
	来場者数	43,040人	47,000人
ラコルタ柏の社会福祉イベント	「誰もが集い、つながり、地域へ広がる」を理念に、個人・団体の活動を支援し、世代や立場を超えた交流を促進する社会参加型の学習・交流事業を促進します。【社会福祉協議会】		
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値
	講座数	322	現状維持
夏ボラのススメ	夏休み期間に、柏市内の学生へ向けたボランティア体験の機会を提供します。WEBによる発信形態に移行することにより、更なる情報発信の充実を図ります。【社会福祉協議会】		
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値
	夏ボラ参加者数	913人	現状維持

民間・大学の取組：読売・日本テレビ文化センター柏

読売・日本テレビ文化センター（よみうりカルチャー柏）は、茶室、ダンス・スポーツスタジオ、音楽レッスン室など計11の施設を備え、趣味、教養をはじめ、野外講座やジュニア向けの講座など400を超える多彩な講座を開催しています。地元・柏にとどまらず、広域から幅広い年代のかたが集う「学びの場」となっています。

民間・大学の取組：NHK文化センター柏教室

NHK文化センター（NHKカルチャー）では、今の情勢を知る講座、伝統文化に触れる講座、日々のくらしを彩る講座、健康に人生を送るための講座など、多彩で魅力あふれる講座を提供しています。

また、出会いと学びのフェスティバル「Nカルフェス」と題して、秋には全国各地の教室で、学びの要素を付加した特別講座を開催しています。

② 障害の有無、言語や時間、経済的制約に関わらず、ともに学ぶ環境の充実

◆ 主な事業

学びの支援者育成を含めた、学習環境の整備

事業名	内容			
手話奉仕員、点訳奉仕員、朗読奉仕員養成講座	手話や点訳、朗読ボランティアに興味がある市民を対象に、基本的な技術を習得し、聴覚障害者等への理解を深める講座を開催します。また、講座の修了者を各ボランティア団体への参加につなげます。【障害福祉課】			
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値	
	講座の修了者数	手話（入門講座） 手話（基礎講座） 点訳 朗読	21人 11人 8人 19人	25人 20人 25人 25人
手話通訳者・要約筆記者養成講座	聴覚障害者等のコミュニケーションを支援するためにより専門的な技術を習得する講座を提供します。講座を修了し試験に合格した人を、団体における通訳者としての雇用につなげます。【障害福祉課】			
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値	
	手話通訳者数 要約筆記者数	18人 14人	障害福祉計画に連動した目標値とする	
日本語教室	柏市在住・在学・在勤の外国人を対象として、日本での日常生活に困ることのないよう日本語学習を支援する活動を実施します。【共生・交流推進センター（国際交流センター）】			
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値	
	講座受講者数（延べ）	4,627人	6,000人	



手話講習（基礎）



日本語教室

千葉県の取組：学校卒業後における障害者の学びの支援事業

さわやかちば県民プラザでは、障害者が学校卒業後も生涯を通じて学び続ける環境を整えています。

障害者の生涯学習の機会を拡充させるために、持続可能な学習プログラムを開発・展開し、その成果等を市町村に提供しています。また、障害者の学びサイト「『学び』で輝く！～「やりたい」を今こそ「できる」に～」を開設して情報提供を行うとともに、18～49歳の知的障害者を対象とした「さわやか青年教室」を展開し、学びの機会を提供しています。



2 「もっと知りたい、つながりたい」を支援

市民が学びあい、教え合う相互学習の機会を創出し、多世代や多分野の交流を促進します。市民団体や民間事業者・教育機関と連携し、学習機会等の拡充を図るとともに、効果的な学びを支援します。

◆ 成果指標

指標	基準値 (令和6年度)	目標
「柏市をより良くするための活動への参加や行動しようとする気持ちは、どの程度ですか」で6点以上の人の割合	35.7%	増加を目指します

<実現へのアプローチ>

① 団体同士、学ぶ人同士の交流

◆ 主な事業

イベント等をきっかけとした参加者、学びのつながりの創出

事業名	内容		
ラコルタ柏フェスティバル	ラコルタ柏で日頃活動している団体・サークル等が一堂に会して、活動の成果発表や体験教室などを通じて、来場者や団体・サークル相互の交流を図ります。【福祉政策課・中央公民館】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	参加人数	1,934人	2,300人
市民活動講座	NPOや公益団体と連携しながら市民活動団体の活動のための講座を開催するとともに、講座を通じて市民活動団体の連携や交流を促進します。【市民活動支援課】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	市民活動講座参加人数	50人	80人
協働まちづくりサロン	多様な主体が地域課題を共有し協働して取り組むための相互理解と意見交換の場を用意し、学びのつながりを創出します。【市民活動支援課】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	協働まちづくりサロン参加人数	80人	100人
ラコルタ柏の社会福祉イベント【再掲】	「誰もが集い、つながり、地域へ広がる」を理念に、個人・団体の活動を支援し、世代や立場を超えた交流を促進する社会参加型の学習・交流事業を促進します。【社会福祉協議会】		
みんなの子育て広場	講演会や井戸端会議的なグループワークなどを実施し、子育てに関する情報収集や不安・悩みの解消、仲間づくりを支援します。【生涯学習課】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	みんなの子育て広場の事業数	137事業	170事業



市民活動講座（左）

ラコルタ柏フェスティバル（右）

- ② 大学や民間事業者等の生涯学習実施機関との連携による、より深い学び、学び直しへの発展

◆ 主な事業

生涯学習実施機関（行政、団体、民間を含む）のネットワーク化の推進

事業名	内容		
新生涯学習実施機関のネットワーク化推進	市民への学び提供に向けて、情報共有会の開催等を通じた関係機関との連携や、情報共有の促進を図ります。【生涯学習課】		
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値
	情報共有会の開催回数	—	1回以上
生涯学習情報システム（らんらんかしわ）	柏市内を中心とする生涯学習に関する情報を総合的に提供し、市民の学習活動の活発化と学習資源の有効利用を図ります。【生涯学習課】		
	<KPI>	現状値(R 6)	目標値
	らんらんかしわ閲覧数	62,963件	70,000件



民間・大学の取組：開智国際大学公開講座

開智国際大学では、大学における研究と教育の成果を広く社会に還元すること、地域のかたの教養と文化の向上に寄与することを目的として、公開講座を開催しています。

民間・大学の取組：麗澤オーブンカレッジ

麗澤オーブンカレッジでは、緑豊かな麗澤キャンパスをイメージした「3つの森」～「文化・教養の森」「ことばの森」「健康の森」～をコンセプトに、様々な生涯学習講座を開講しています。

太極拳など体育系講座は珍しく、武道館やトレーニングルームなどの施設が利用できるのが強みです。

民間・大学の取組：江戸川大学オープンカレッジ

江戸川大学オープンカレッジでは、主に社会人向けの一般教養講座、学部の講義を公開する一般公開授業のほか、今日的テーマや東葛地域に関するテーマを取り上げる特別公開講座、研究所等と共に開催されています

3 「ひろく伝えたい、学びを活かしたい」を支援

学びを通じて、地域で活躍する人材の育成や活動の場の充実を図ります。

◆ 成果指標

指標	基準値 (令和6年度)	目標
学習や活動の成果を活かせる機会があると思う人の割合	21.9%	増加を目指します
「自らの学びを活かす場の創出」の満足度	17.0%	

<実現へのアプローチ>

- ① 人材の育成、コミュニティの育成、地域資源の活用

◆ 主な事業

学びをきっかけとした地域団体・市民活動団体との連携と、地域活動につなげる仕掛け

事業名	内容		
読み聞かせボランティア養成	こども図書館の個人ボランティアや行事ボランティア(団体)、分館団体読み聞かせボランティアを対象に研修会を開催します。【図書館】		
地域いきいきセンター	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	参加人数(延べ)	29人	200人
地域いきいきセンター	近隣センターを拠点とした身近な福祉の相談窓口である地域いきいきセンターにおいて、地域づくりを支援するイベントや講座を実施します。【社会福祉協議会】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	講座開催数	13回	12回以上

社会教育士などのコーディネーター人材の活用

事業名	内容		
新生涯学習推進事業の地域展開【再掲】	近隣センター等の公共施設を学びの場として活用し、社会教育士などの社会教育人材がハブとなり、学びを切り口とした地域での居場所づくりと、「みんなつながる、まなびでつながる」環境づくりを支援します。【生涯学習課・中央公民館】		
教育福祉会館(ラコルタ柏)の自律(立)的運営や公民館事業を通じた人材育成	教育福祉会館の事業推進委員会の運営を通じて、ラコルタ柏コーディネーターの後継者となる人材育成を図ります。【福祉政策課・中央公民館】	<KPI>	現状値(R6)
	コーディネーター数	2人	2人
市民活動コーディネーター講座	地域課題を解決し、地域活動を支援する人材を養成する講座を開催します。【市民活動支援課】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	コーディネーター講座参加人数	—	10人

千葉県の取組：千葉県生涯大学校

千葉県では、「高齢者等に学習の機会を提供し、高齢者自らが社会的活動に参加することによる健康の保持増進や生きがいの高揚に資すること」、「高齢者が福祉施設、学校等におけるボランティア活動、自治会の活動その他の地域における活動の担い手となることを促進すること」を目的として、千葉県生涯大学校を県内5地域に設置しています。55歳以上の方が対象で、新しい知識を身につけながら、生きがいを得て、健康を増進し、仲間づくりをしています。²⁴

また、卒業生は、学んだ知識や経験を活かして、地域で様々な活動を続けており、柏市内でも学びの場が広がっています。

千葉県生涯大学校



生きがい・健康・仲間づくり

あなたの輝きがきっと見つかる！

²⁴ 第3次千葉県生涯大学校マスタープラン（令和5年3月策定）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/jinzai/shougaidaigaku/documents/masterplan3th.pdf>

4 学びのための情報提供とICT活用

生涯学習情報を的確かつ効果的に提供できるよう、学びのプラットフォームを整備するとともに、学習におけるICTツールの活用を進めます。

◆ 成果指標

指標	基準値 (令和6年度)	目標
生涯学習に関する情報が充実していると思う人の割合	37.5%	増加を目指します

<実現へのアプローチ>

① 学びのプラットフォームの整備

◆ 主な事業

市所管の活動団体が情報発信するツールの整理と民間情報を含めた、生涯学習情報の集約化

事業名	内容	
生涯学習情報システム（らんらんかしわ）【再掲】	柏市内を中心とする生涯学習に関する情報を総合的に提供し、市民の学習活動の活発化及び学習資源の有効利用を図ります。【生涯学習課】	

ICTツールの活用も含めた学びと広報

事業名	内容		
ICTツールを活用した学びのコンテンツ提供	ICTツールを活用した学びのコンテンツ提供を通じて、ライフスタイルに合わせた学習機会を拡充します。【生涯学習部】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	学習コンテンツの提供数	1件	5件以上
生涯学習ガイド	柏市及び大学・民間事業者等が主催する生涯学習関連事業を『生涯学習ガイド』に掲載し、学習情報として提供します。【生涯学習課】		
	<KPI>	現状値(R6)	目標値
	情報掲載数	121件	140件以上

千葉県の取組：ちばりすネットplus（プラス）

さわやかちば県民プラザでは、県民の生涯学習推進のため、県内の生涯学習に関する各種情報を収集・提供し、学習相談にも対応した千葉県生涯学習情報提供システム事業（愛称：ちばりすネット）を展開しています。

目的にあった情報は、インターネット等からいつでも取り出すことができるほか、多くのリンク先からも最新の情報を得られるようになっています。



千葉県の取組：学びの総合窓口

「学びの総合窓口」では、キャリアの見つけ直しやスキルアップのため、学び直しの情報や個別相談などのサポートを提供しています。

【リカレント講座】（社会人のための学び直しセミナー）

各業界に精通した講師を招き、求められる人物像やスキル、キャリア形成の重要性などを学べる講座をオンラインで開催しています。

【オンラインキャリア相談】

これまでのキャリアに捉われない学び直しや、将来を見据えたスキル学習について、個別相談を受け付けています。



令和7年度事業チラシ

生成AIの活用と生涯学習

AIの普及が急速に進む中、市民の学びの場においても活用が進んでいます。

生涯学習において、生成AIは、個人の興味や要望に応じた学習計画の作成、学習内容の要約、アイデアの創出、スキルの習得などを支援するツールとして、個々の学習者のペースや興味に合わせた学びを促進し、学習効率や効果の向上に寄与することが期待されています。

文部科学省でも生成AIを多様な学習ツールの一つとしてとらえ、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」を策定し、学校現場における生成AIの適切な利活用を進めています。また、経済産業省や総務省においては、生成AIの普及に伴う課題の整理を行い、人材育成に取り組むとしています。

現在、各省庁が連携してガイドラインの策定や実証実験を進めているように、社会全体で生成AIとの付き合い方を模索する中で、私達市民は、活用におけるリスクも含め、その特性をよく理解し、自ら深く考え、創造する力を育みながら、個々の学びの中で賢く活用していく姿勢が求められています。